

F-1 東北・北海道地区居住者の老化現象に関する疫学的研究(第1報)
—東北居住者の生活状況について—

宮城学院女子大後藤たへ 吉田精一郎 尚絨短大乙坂ひで 〇岩手鷹嘴テル
修紅短大松川敏 米沢短大榎光章 会津短大佐川澄子 東北女子大 葛西文造

目的 本報告は、われわれが東北地区居住の老人生活の実態を把握し、老人生活の向上をめざすことを目的として行なった調査のうち、生活の状況についてまとめたものである。

方法 東北地区居住者の満65才から70才に至る老人のうち、583名を対象とし、家族状況、経済状況、生活状況(衣・食・住等)、機能上外見上の老化度、意識および嗜好等について、ききとり法で調査した。

結果

1. 家族形態は各年齢とも、老人世帯は20%を占めるが、70才では6%と急激に減少、また配偶者のない老人は圧倒的に女に多い。
2. 無職率は、年齢の増すにつれて高くなる。事務・労務の技術系の就労者は少ないが、自営業は農業商業とも男女約15%働いている。
3. 情報吸収意欲は男性より女性が高く、新聞購読率は年齢の増加に伴って低くなる。
4. 食生活では、男性は食品の選択範囲は広いが、女性は野菜、果物、漬物に集約されている。
5. 外見^(機能上)の老化度は女性の方が高いが、平均寿命は女性が多いことから、これからの女の生き方を再検討する必要がある。